

【決算委員会】

(1) 審議概観

〔平成10年度決算外2件の審査〕

平成10年度決算及び国有財産関係2件は、第147回国会の召集日である平成12年1月20日に提出された。このうち、10年度決算については、12年5月29日の本会議において、大蔵大臣からその概要報告を受け、質疑を行った後、同日、委員会に付託された。また、国有財産関係2件についても、同日、委員会に付託された。

平成10年度決算の概要は、次のとおりである（本誌Ⅲの2の「宮澤大蔵大臣の平成10年度決算の概要についての報告」を参照）。

平成10年度一般会計歳入歳出決算における歳入決算額は89兆7,826億円、歳出決算額は84兆3,917億円であり、差し引き5兆3,908億円の剰余を生じた。この剰余金は財政法第41条の規定により、平成11年度一般会計歳入に繰り入れられた。10年度一般会計予算中の翌年度への繰越額は4兆4,305億円、不用額は8,684億円、また、財政法第6条の純剰余金は9,586億円である。

平成10年度特別会計歳入歳出決算における38の各特別会計の収納済歳入額を合計した歳入決算額は306兆4,169億円、支出済歳出額を合計した歳出決算額は272兆5,790億円である。

平成10年度国税収納金整理資金受払計算書における資金への収納済額は58兆453億円であり、資金からの一般会計等の歳入への組入額等は57兆3,369億円であり、差し引き7,084億円が平成10年度末の資金残額である。

平成10年度政府関係機関決算書における11機関の収納済額を合計した収入決算額は7兆2,932億円、支出済額を合計した支出済決算額は7兆2,153億円である。

国有財産関係2件の概要は、次のとおりである。

平成10年度国有財産増減及び現在額総計算書における10年度中の国有財産の差引純増加額は5兆43億円、10年度末現在額は100兆6,247億円である。

平成10年度国有財産無償貸付状況総計算書における10年度中の国有財産の無償貸付の差引純減少額は22億円、10年度末現在額は1兆1,337億円である。

委員会においては、12年5月29日、大蔵大臣から平成10年度決算外2件の概要説明を、会計検査院長から平成10年度決算検査報告及び平成10年度国有財産検査報告の概要説明をそれぞれ聴取した。

なお、12年5月30日の委員会において、衆議院の解散による閉会中も審査を行うことができるように継続審査の手続を行った。

〔国政調査等〕

国家財政の経理及び国有財産の管理に関する実情調査のため、第146回国会閉会後の平成12年1月12日から13日までの2日間、広島県及び愛媛県並びに愛知県、三重県及び京都府にそれぞれ委員を派遣した。その派遣報告は、第147回国会開会中の4月26日に行われた。

(2) 委員会経過

○平成12年4月26日（水）（第1回）

- 理事の補欠選任を行った。
- 国家財政の経理及び国有財産の管理に関する調査を行うことを決定した。
- 派遣委員から報告を聴いた。

○平成12年5月29日（月）（第2回）

- 平成10年度一般会計歳入歳出決算、平成10年度特別会計歳入歳出決算、平成10年度国税収納金整理資金受払計算書、平成10年度政府関係機関決算書
平成10年度国有財産増減及び現在額総計算書
平成10年度国有財産無償貸付状況総計算書

以上3件について宮澤大蔵大臣から説明を聴いた後、会計検査院の検査報告について金子会計検査院長から説明を聴いた。

- 国家財政の経理及び国有財産の管理に関する調査の継続調査について決定した。

○平成12年5月30日（火）（第3回）

- 平成10年度決算外2件の継続審査について決定した。

(3) 付託議案審議表

・決算その他（3件）

備考欄記載事項は本院についてのもの

件名	提出月日	参議院			衆議院		
		委員会 付託	委員会 議決	本会議 議決	委員会 付託	委員会 議決	本会議 議決
平成10年度一般会計歳入歳出決算、平成10年度特別会計歳入歳出決算、平成10年度国税収納金整理資金受払計算書、平成10年度政府関係機関決算書	12. 1.20	12. 5.29	継続審査				
	○12. 5.29 大蔵大臣報告						
平成10年度国有財産増減及び現在額総計算書	1.20	5.29	継続審査				
平成10年度国有財産無償貸付状況総計算書	1.20	5.29	継続審査				